

秋田県文化財調査報告書第498集 払田柵跡調査事務所年報2014 附図
史跡払田柵跡調査集成図2 外郭北東地区

附図1 外郭北東地区集成図1
附図2 外郭北東地区集成図2
附図3 外郭北東地区集成図3
附図4 外郭北東地区集成図4
附図5 外郭北東地区集成図5
附図6 外郭北東地区集成図6
附図7 外郭北東地区集成図7
附図8 外郭北東地区集成図8

附図9 外郭北東地区集成図9
附図10 外郭北東地区集成図10
附図11 外郭北東地区集成図11
附図12 外郭北東地区集成図12
附図13 外郭北東地区集成図13
附図14 外郭北東地区全体図1
附図15 外郭北東地区全体図2

払田柵跡調査事務所では、平成21・22年度にかけて、昭和49年の事務所開設以来、40年近くにわたり作成された2,000枚もの現場平面図について、緊急雇用創出臨時対策基金を活用して、CADを用いたデジタルデータとして合成し、調査集成図として整理した。

払田柵跡の調査成果については、年度毎に刊行する年報のほか、調査成果のまとめを以て正報告（Ⅰ「政府跡」・Ⅱ「区画施設」・Ⅲ「長森地区」が既刊）にまとめ、調査成果として公開している。

しかし時期不詳の遺構・後代の搅乱・ごく小規模の柱穴様ピット、その他地形・自然縫なども含め、遺構分布図中に図化することにより平面図が煩雑になると判断され、第2原図作成および整理編集作業の過程で、図化から除外されたものも少なからず存在する。

今回の事業により、年度毎・調査区毎の評価ではなく、一定の範囲を広く総合的に俯瞰・精査し、総体としての遺構配置を比較検討することが可能となったため、今後、少しずつではあるが生データの調査平面集成図として、公刊していくこととした。

平成25年度に第1回目として政府地区を取り上げた。第2回目となる今年度は、東西南北の八脚門及び墓地解から材木堆へと4期にわたる変遷が明らかになっている外郭線及び外郭城から、外郭北東地区をとりあげることにした。現在、外郭北東地区は、大仙市による整備事業が進められており、この機会に調査で検出された全遺構を含む生データについて大判の集成図を作成し、比較検討・研究に供することができるようにした。

今後も地区ごとに図面を集成し、機会をみて少しずつ公刊していくこととする。

註

- ・外郭北東地区的調査は大きく北大路地区・外郭北門地区・外郭東門地区に分かれ、第2・3・9・20・48・51・59～61・64・68・75・89・98・99・103・107・108・110～113・127・133次調査が該当する。今回の集成図を編集するにあたっては、第2・9・61・64・68・99・103・107・110～113次調査の成果を取り上げ、調査区が重複する場合には、基本的に新しい成果を優先して掲載した。遺構No.及び所見等については、当該報告書（年報）及び正報告Ⅱ「区画施設」を参照されたい。
- ・後世の搅乱等も含め、調査の際、平面図に記載された全遺構、地形等をそのまま掲載した。
- ・附図どうしの位置関係を確認しやすくするため、5グリッド（15m）四方毎にメッシュを組み、重ねて印刷した。
- ・今回の附図で初出となる遺構その外を研究に供する際には、当該報告書等で確認のうえ、当事務所所蔵の調査記録類との照合が必要となる場合もある。その際には事務所まで連絡されたい。